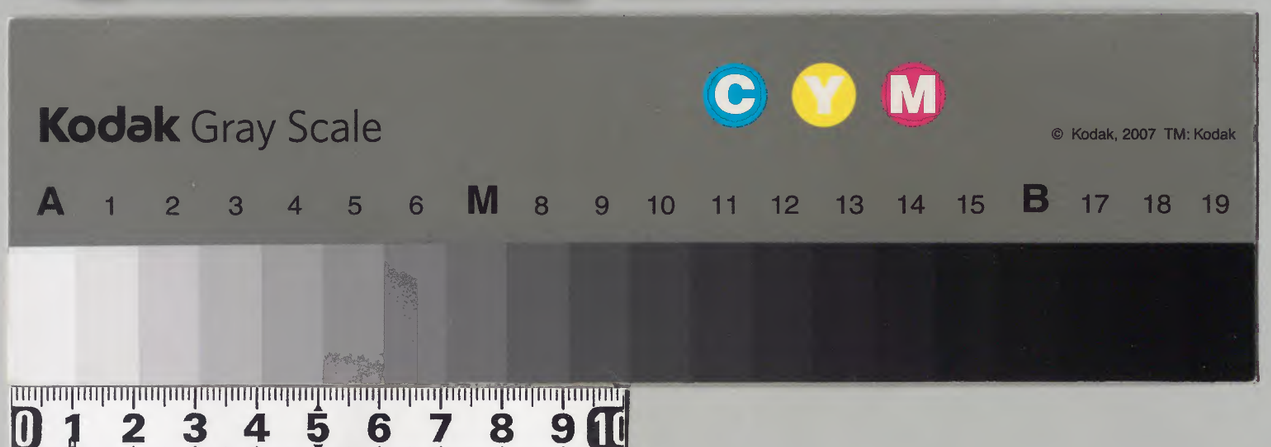
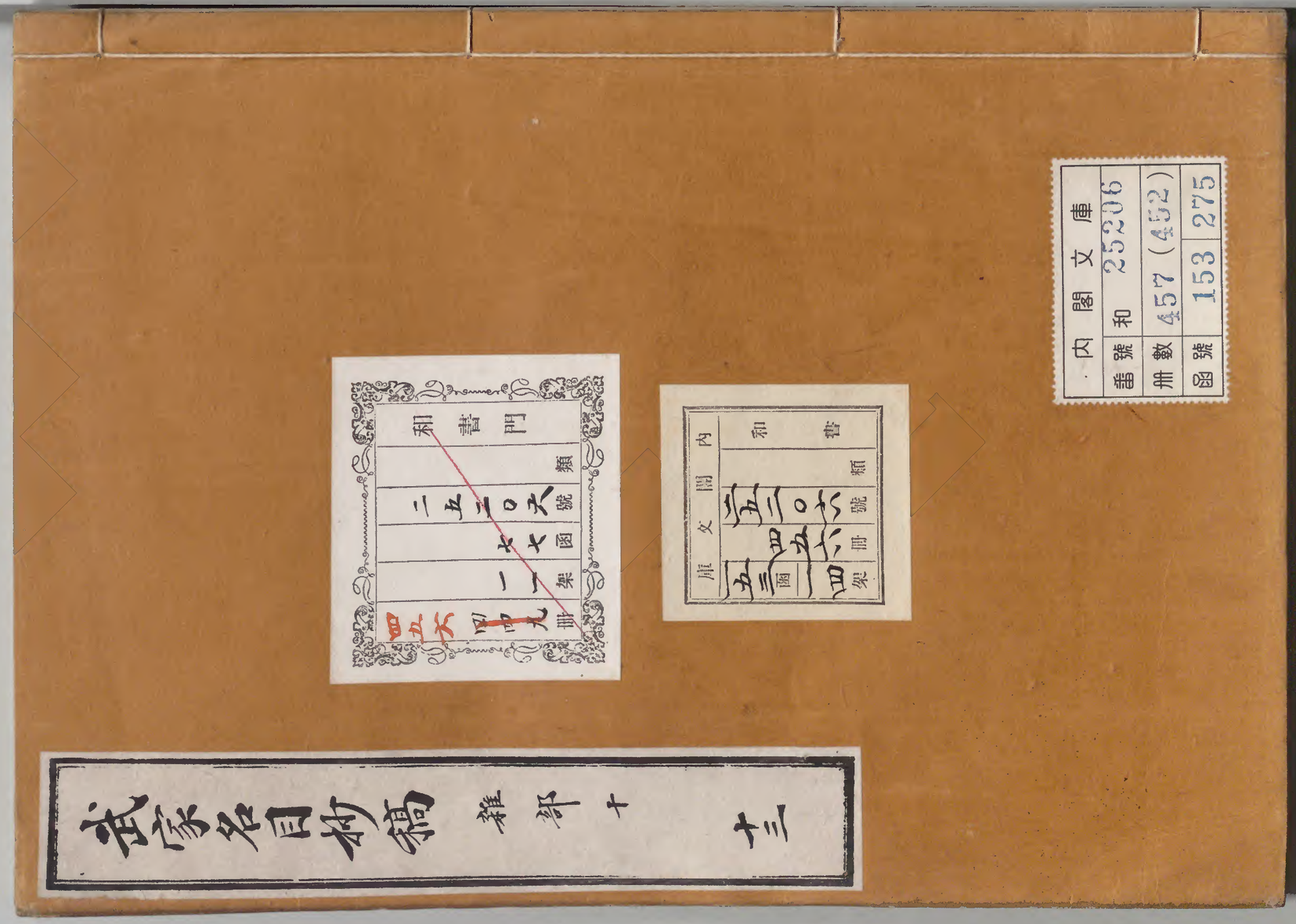



国立公文書館
National Archives of Japan



武家名目抄稿第十三冊

雑部十目録

切腹　傷害　今死
自害　自害
自殺　今死
腹ノ切様
刀切腹死　今死

国立公文書館
National Archives of Japan

腹一文字ニ切
腹八文字ニ切
腹十文字ニ切
詰腹
追腹
供腹
殉死

武家名目抄稿第十三冊

雑部十

切腹

太平記云島津家本ノ癈抑祖皇御告文ノ事
腹自殺條
竊ニ先年ノ由來ヲ尋スルニ去正應三年
三月十日ノ事ナリシニ未天曙已前卯刻
ニ癈腹八郎源為頼ト云シ武士禁闈ニ亂
入ノ事有中略清冷殿ノ方常御所破入ヲ

ルニ聖運地ニ落サルヲコトナレハ主上モ
事疾ク遁レ忍ハセ御シカハ夜ノヲトニ
晝ノ御座マテ蹈汚シアサリ求奉テセン
方ナキマヽニ紫宸殿ニテ腹ヲ切腸ヲ繰
出シ賢聖ノ障子御帳ノ帷ニ投付テ三人
一所ニ死ニキ
又云 天文本錦 會 中合戦條 長崎入道圓喜是マテモ
入道殿御事如何カト思タル氣色ニテ見
ヘケルヲ長崎左衛門次郎祖父圓喜ノ前
ニ畏テ父祖ノ名ヲ擧ヲ以子孫ノ孝行ト
スル事ニテ候ナレハ佛神三寶モ定メテ
御免コソ候ハンスラメトテ圓喜ノ肱ノ
係リヲ二カ指シテ返カニ己カ腹七寸計
掻破テ同枕ニ伏タリケリ
又云 千壽王殿被落大藏谷條 高氏ノ長男竹若ハ伊豆
ノ御山ニ御座ケルカ伯父ノ宰相法印良

遍兒同宿十三人山伏ノ姿ニ成テ潜ニ上
洛シ給ケルカ浮嶋カ原ニテ彼兩使ニソ
行合給ケル内諏方長崎生取奉ントシ思處ニ
宰相法印無是非馬上ニテ腹切テ道ノ傍
ニソ臥給ケル長崎去ハコソ内ニ野心ノ
アル人ハ外ニ遁ルニ辞無シトテ竹若殿
ヲ潜ニ指殺シ奉リ同宿十三人ヲハ頭ヲ
刎テ浮嶋カ原ニ懸テソ通リケル

慶長見聞記云長束正家ハ南宮山ニ備居
ケルカ味方打負ケル間カナク江州櫻井
谷ト云所ニ隠居ケルト聞ヘシカハ池田
備中守龜井武藏守ヲ打手仰付テル兩人
此所ヘ押寄使ヲ以申サルヽハ長束殿御
兄弟此所ニ御座ノ間各參候切腹アルヘ
キトノ使ニテ候間尋常ニ御自害アルヘ
キト申遣シニカハ家人奥村左馬西川兵

庫ヲ出シ尤長束是ニ候唯今切腹仕ヘシ
トナリ舎弟伊賀守御先仕ルヘキトテ検
使ノ前ニ畳ニヨレカヽセ大庭ヘ出一禮シ
テ七切腹ス林甚蔵ト云者介錯シテ其身モ
同切腹スル所ヲ検使取付留ヲク其間ニ
長束モ出ラレ戸板ノ上ニテ一禮アツテ切腹セントシケルカ
申ケルハ奥村左馬トカ申家来ノ者切腹仕
ルヘキノ間御留給ハヽテ自害ス奥村介錯シテ則其刀テ自害
スル所ヲ留ントシケル間ニ早突立ルト
イヘドモムリニ留テ疵ヲ養生サセ云々

自害

太平記云吉野軍城條義光ハ二ノ水戸ノ高櫓
ニ上リ遥ニ見送リ奉テ宮ノ御後影ノ幽
ニ隔ラセ給ヌルヲ見テ今ハカウト思ヒ

ケレハ櫓ノサマノ板ヲ切落メ身ヲアラ
ハニメ大音声ヲ揚テ名乗ケルハ天照大
神ノ御子孫神武天皇ヨリ九十五代帝後
醍醐ノ天皇第二ノ皇子一品兵部卿親王
尊仁逆臣ノ為ニ亡サレ恨ヲ泉下ニ報セ
ン為ニ只今自害スル有様見置テ汝等武
運忽ニ尽テ腹ヲキラントスル時ノ手本ニ
セヨト云ヒ終ニ鎧ヲ脱テ櫓ヨリ下ヘ投落
シ錦ノ鎧直垂ノ袴計ニ練貫ノ二ツ小袖
ヲ押膚脱テ白ク清ケ成膚ニ刀ヲツキ立
テ左ノ脇ヨリ右ノソハ腹マテ一文字ニ
掻切テ腸ヲ外ニ出シ櫓ノ板ニナケツケ太刀ヲ
口ニクワヘテ俯ニ成テソ臥タリケル
又云金崎城落條抑自害ヲハ如何様ニシタルカヨキ物ソト被仰ケレハ義顕感涙ヲ押
ヘテ加様ニ仕ル者ニテ候ト申モハテス

刀ヲ抜テ逆手ニ取直シ左ノ脇ニ突立テ
右ノ脇ノアハラ骨二三枚懸テ掻破リ其
刀ヲ抜テ宮ノ御前ニ差置テウツフシニ
成テソ死ニケル一宮驚テ其刀ヲ被召御
覧スルニ柄口ニ血餘リスヘリケレハ御
衣ノ袖ニテ刀ノ柄ヲヌキリニト押巻セ
セ給テ如雪ナル御膚ヲ顕シ御心ノ邊ニ
突立義顕カ椀ノ上ニ伏サセ給フ

鎗田等云云清志等云云志かいとゆも先ナはう
志ゆうとそゆもさいこのときハま
まむうつてゐ玉あもせかうしやうに祢ん
つをめさまおしはかるをしんぬいてう
てのうきにかそたてめてへなをとり
もしかへすカをとりおろもとり
さしたてもう面の美きをへをしおろし
さうをはうんくにを

りてすくたるをなよきさちいとやあり
彰田由良兵傳記云輝虎より彰田へは使者
を以て日比訓ふくや合の処より計策を以
我等を取討てと成し旨迷惑にいたしを
上意に乱入ぬ非一戦仕後員を連に油の
ごとく行違い掃ハ中暑成祭ふ行ハ免
角一戦致せ事くと連ふ行ハ、なは一戦
おくハ出ぬ之二の合戦ふいは旨私せ
ふ行生いふも何乃せんの事ふいは許あく
ハ自害仕ハ先一の仕方中上ハ旨仕上ハ免角
も備前守次第と云行生いは刈輝虎ふ使者
へ此段ふ申遣ふ仕切腹仕候弾ふ永ハおく
み云成いは
腹ノ切様
栄田退治記云始小谷御方十二人之妾三
千歌餘人女房達期唯今最後念佛称名如何

邪見人取剣害之哉勝家思切取引寄引伏
一々差殺見勝家腹之切様差立左手脇引
着右手背骨返刀自心下迄臍下(タチキワテ)掻出五
臓六腑呼文荷請打首文荷廻後首下打落
云々

腹一文字ニ切

太平記云備中福山合戦條今ハ可遁共覚子ハ最
後ノ念佛心閑ニ唱ヘテ腹ヲ切ラント思

ソ其程敵ノ近付カヌ様ニ防ケト(テ)馬ヨリ
リ飛テヨリ辻堂ノ中ヘ走入本尊ニ向ヒ
手ヲ合セ念佛高聲ニ二三百返カ程唱テ
腹一文字ニ掻切テ其刀ヲ口ニ加テウツ
フシニ成テソ臥タリケル

腹八文字ニ切

天正本太平記云越後守仲時以下
時ノ腹ニ撞立テレタル刀ヲ取腹八文字
於番馬自害條宗秋仲

ニカキ破リ仲時ノ左ノ股ニ抱附テ伏云
々
腹十文字ニ切
太平記云頼員回
忠條 土岐十郎久々戦テハ中
々生捕レントヤ思ケン本ノ寝所ヘ走帰
テ腹十文字ニカキ切テ北枕ニコソ卧タ
リケレ
又云高時自
害條 去程ニ高重走廻テ早々御自

害候ヘ高重先ヲ仕テ手本ニ見セ進セ候
ハントト云儘ニ胴計残タル鎧脱テ抛ステ
ヽ御前ニ有ケル盃ヲ以テ舎弟ノ新右衛
門ニ酌ヲ取セ三度傾テ損津形部大夫入
道々準カ前ニ置キ思指申ソ是ヲ看ニヽ
給ヘトテ左ノ小股ニ刀ヲ突立テ右ノ傍
腹マテ切目長ク掻破テ中ナル腸手繰出
メ道準カ前ニソ伏タリケル道準盃ヲ取

テ半分計呑残テ諏方入道カ前ニ指置同
ク腹切テ死ニケリ諏方入道直性其盃ヲ
以テ心閑ニ三度傾テ相摸入道殿ノ前ニ
差置テ腹十文字ニ掻切テ其刀ヲ抜テ入
道殿ノ前ニ指置タリ長崎入道圓喜ハ是
マテモ猶相摸入道ノ御事ヲ何奈ト思タ
ル氣色ニテ腹ヲモ未切ケルカ長崎新右
衛門今年十五ニ成ケルカ祖父ノ前ニ畏
テ父祖ノ名ヲ顯スヲ以テ子孫ノ孝行ト
スル事ニテ候ナレハ佛神三寶モ定テ御
免コソ候ハンスラントテ年老残タル祖
父ノ圓喜カ肱ノカヽリヲ二刀差テ其刀
ニテ己レカ腹ヲカキ切テ祖父ヲトツテ
ヒキ伏セテ其上ニ重テソ臥タリケル此
小冠者ニ義ヲ進メラレテ相摸入道モ腹
切給ヘハ城入道續テ腹ヲソ切タリケル

是ヲ見テ堂上ニ座ヲ列タル一門他家ノ人々雪ノ如クナル膚ヲ推膚脱々々々腹ヲ切人モアリ自頭ヲ掻落ス人モアリ思々ノ最後ノ體殊ニ曲々敷ソミヘタリシ又云一宮御息所條只今ノ程ニ海底ノ龍神ト成テ其船ヲハ遣マジキ者ヲト忿テ腹十文字ニ掻切テ蒼海ノ底ニソ沈ケル大内義隆記云今度ハ時節ト幸ニ隆保ヲ卒スル者ニモ毛利高原ヲカタラヒ謀叛ヲ起シテ隆保ニ腹ヲキラスル事ソカシ若輩ニテハ有ケレト腹ノ切ヤウ十文字ニ先横サマニ切テイニシヘコレカタノ事トモヲ心静ニ語リツヽ在山口ノ其時ハ十一二歳ノ時ヨリモ歌鞠ノ御會ニ參ツヽ御意ニ應スル故候哉一門ニテモナケレヒ平賀ノ家督玉ハリテ一両年モ過行

ハ本意ヲトケシ事トモ物語リシテ其後
ニ硯料紙ヲ出セトヨ書置ヘキ事有ト歌
ヲヨミツヽ申セヒ介錯ノ者ヒカ鬼ノ様
ナル心ニテ歌道知スニ候ヘハ硯料紙ハ
出サスシテ時刻ウツリテ叶マシ早々ト
イソキケル隆保力及ハツシテ脇指ヲ取
直シ心モトヨリ乳ノ下ヘ差ヲロシテソ
伏ニケル

義残後覺云壹岐守ハ廣間ニ帰ツテ鎧脱
捨テ腹十文字ニ切テ
人ノ兵トモヽ諸方ニ火ヲ懸皆々自害シ
タリケルソ思フ圖ニノセタル夜討哉ト
勝關上テソ帰ニケル武畧智謀ノ譽アツ
テ剛強ノ名ヲ得タル壹岐守モ運盡ヌレ
ハ勝テ甲ノ緒ヲシメサルト云アヘリケ
ル

又云忍軒羌北御方
御寂後之条雑兵ラハ跡ニ止テ三
百ヲ引具シテ滝ノ法泉寺ヘ落給ヲ其レ
ヨリモ亦大寧寺落給テ心静ニ自害セン
トテ和尚ニ尋給ヒテケレハ則炅雪和尚
出給ヒ暫ク裁断シ玉ヒテ天野藤内介借
仕レトテ腹十文字ニ切給ヒテ天野ヲ呌
ト見給ヒ云々

詰腹

新田老談記云随見勝安暇乞モセス越後
ニ退キ其上入道モ先代御恩ヲ忘レ出仕
ヲ止メ大抜佐兵衛カ悪言ノ沙汰モ難遁
兜角入道モ生害ヲ可仰付ト定ケレハ津
苻子山越是ヲ聞テ延引モセハ和談ノ許
訟人モ出来ナントト思早速詰腹ヲ切セン
ト思ヒ石原石見方ヘ内通ヲ申遣ケレハ
速ニ了定仕ニ依テ人數ヲ催シ赤萩ノ屋

形へ押寄

追腹

簑輪軍記云簑輪城内中村
井田兵庫条 釈迦牟尼佛敵
員耐陶隆として古今取白掏の大長刀抜
横ホこのひっさげ多勢の中へ割て入令抜不
惜戦ふ立ホ敵二十八人ほど出逆
横ニ切落し重ね八諸ニ立矢もこの扱元の城
へ打入る郎共ホ拒き矢射させ重ね八持
佛堂に入父の位牌を三雅一書の上帯
切落して自害しける防き矢射る
人も追腹切て伏ける
惟任征伐記云濃州住人松野平助一忠其
夜在邊土夜討之由聞之馳来之處御所之
軍相果将軍(信長)被召御腹之間不及力走入妙
顕寺可切追腹定覚悟
安土日記云松野平介妙顕寺ニ候間齊藤

内藏佐景年依為知音内藏佐方ヨリ妙顕
寺へ使者ヲ差越中暑無念成由申智音之方
江送状書置進候仕候
猶撰清正記云大木土佐退散之事、
本書おゝく、六月廿五日ヨリ記別ヲ
よおゐて切紙いたし来て横手城ヲ
廿八日ヨリ廿一日迄ニ何も来て横手城ヲ
ハ三宅角左衛門ヨリ武運ハ神ヲ武運ハ叶ル
仕候共無之候ハヽ
武士也中暑ニ雪ヲ
忍ヲ蒙ヲ又黄泉ニ
武士也中暑ニ雪ヲ云朝飯人ヲ同苦ヲ小切紙
せんと被ヲ両人のみとも是ヲ見候指ヲとり
多ヲ教訓してヲ急ニ候指ヲうくて先稿ヲ
して置ヲ小十四五日ヲ通ヲ候思ヲます
たるとする世界ヲ油断したる時出ヲ
よし入古桶ヲ乃輪ヲ

のお祝時多かりの施を受て猶十文字かゝ
把切て死ざるを以て重ハ百舞人も
紙衆銃箭兵と斗り
當代記云慶長十六年二月廿二日此春薩
州國龍伯病死兼而如置目追腹切者三十
余人云々
江城年録云寛永十一年四月廿五日稲葉
丹後守西後三十八回忌ニ付菩提寺中嚴玄人塚

田水ニて助近猶切
供腹
叔井日記損州青野合戦条
介重長ト申スコレナルハ修理進正村ト
申ス同姓ノ兄弟ニ候摂津守村重カ甥ニ
テ候弟ニテ候正村ハ村重カ子分ノ者ニ
候今日ノ大将分ノ内ニ候ソ印シニ御不
足ハアルマシキツ暑村上落涙シテ然ラ

八心レツカニ自害アレ仰セノアラハウ
ケタマハルヘク候ト云ホトニシカニ、
ノ事トモ申シイサキヨク自害ス供腹ス
ルモノモ有テ候
殉死
釈日本記云養老私記曰徒死也弘仁私記
曰殉死也
懐中記云寛文三年癸卯五月廿日将軍家
令天下禁殉死

武家名目抄稿第十三冊

明治十五年十二月廿八日旧稿校忘　小野由久

同年月廿九日再校并書　盛山宗卓

同十六年一月三日午前五時以旧稿遂一校加朱點了　隼

同十八年三月　校合　深澤政長

圖書寮文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan